

ただ
正しい目的の
ために
努力せよ
りよく

『大パリニツバーナ経』

道を八支とする理由 道とは理想の涅槃に至るべき原因としての修行方法である。それは八つの部分から成る神聖なる道としての八正道とされる。滅諦の説明では渴愛を滅することだけでよきそのに思われるが、八正道という八つの項目が掲げられている。

それはたとえば肺病を治療するには、肺をおかしている結核菌だけを除けばよいというものではなく、肺を直接に治療する以外に、栄養をつけたり、適度の運動や十分な睡眠をとったり、心の不安や苦勞をなくし、希望と安心をもたせるようにすれば、食欲も増して自然に健康も回復するであろう。いかに薬だけを用いても、心が安静せず、身体が元気づけられるものでなければ、薬の効果は十分に現れないであろう。

心の病氣としての苦惱をいやす場合もこれと同じである。苦の原因は渴愛であるとしても、渴愛の除去だけでは十分でない。心は肉体を含めて、有機的に関係しているから、心身の全面にわたって改善して行かなければ、健全な状態としての涅槃は望まれない。ここに八正道という種々の修行項目が要求される理由がある。

『仏教要語の基礎知識』 水野弘元著